

ローカルな素材のデザイン The Design of Local Materials



地域に根ざした素材の利用

Making use of materials rooted in local areas

地方の人口の過疎化に起因する里山の放置林の増加により、生物多様性喪失などの環境問題が発生すると言われている。そこで本プロジェクトはこの放置林等の森林に占める割合が半数以上の広葉樹に着目した。広葉樹は総じて固く重いため加工がしにくく、一般的に利用されづらいが、広葉樹ならではの利点や特性を見直し、それらを活かした制作活動を行うことで問題の解決につなげることを目的・目標とした。

本プロジェクトは昨年度の活動を引き継ぎ、一年を通し神奈川県に多い広葉樹を用いたスツール・ベンチ等の制作活動を行なった。昨年度同様、公共空間に設置することを目的とし、スツール・ベンチのもたらす空間設計及びデザインの変化に重きを置いた。それぞれの学生が独自のスツール・ベンチのデザイン提案を行い、担当教員や美術科の教員とその実現可能性を検討し、秋学期に本格的な制作を開始した。木目の入り方、木材ごとの色、木皮のテクスチャーなど、木材の様々な要素を検討しつつ、それぞれが考える木材本来の良さが一番引き立つ形を思索した。また、鉄製の脚部アタッチメントと木材という材質の異なる素材の調和をも考慮し、デザインを行なった。

今後の可能性としては、「座る」以外の社会活動にも着目し、それを広葉樹という素材で吟味していき、活用の幅を増やすことを目標とする。このエクспанションにより本プロジェクトが広葉樹による空間構成のあり方の再検討と、上記に記した環境問題及び廃棄問題の解決を促すことを期待する。

■学生：11名（今福嶺、里井あこ、阿部百花、坂口隼平、石倉晃成、上杵風砂、江本大礎、大日向晃一、新里悌生、長袋華、伴このみ） / 担当教員：志村真紀、原口健一

■活動地域：神奈川県

■サイト：Instagram：タグ「#ローカルな素材pj」